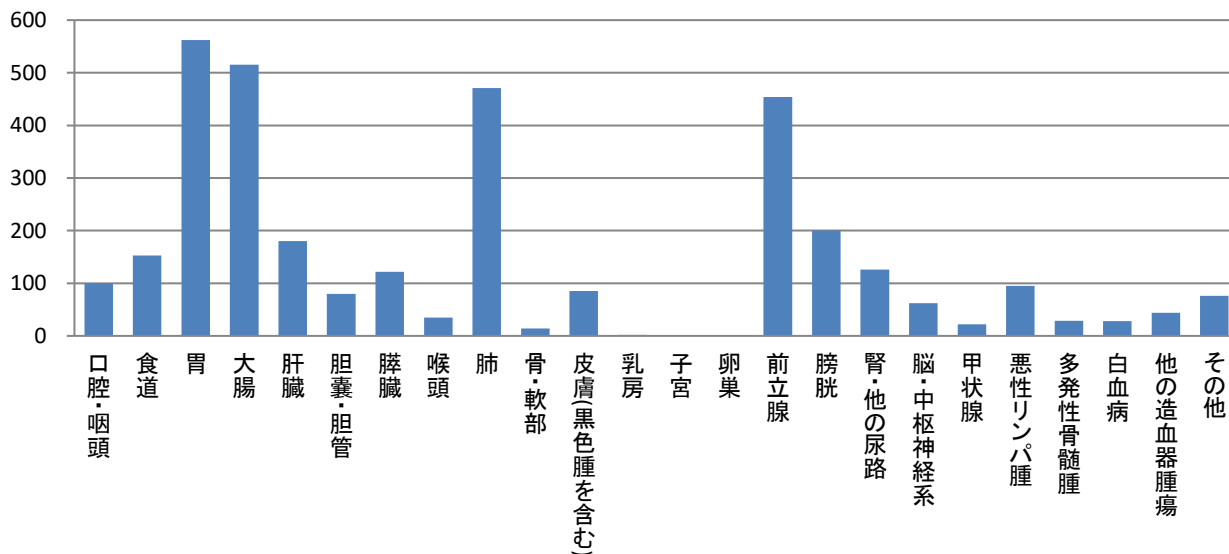


1. 性別・部位別登録数と割合

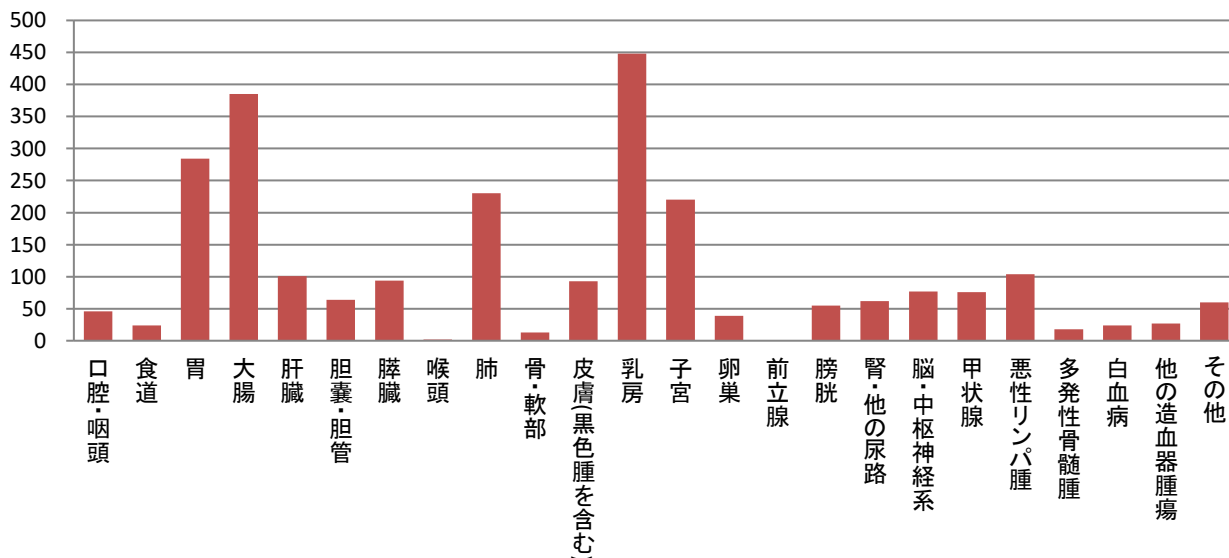
診断日: 2014年1月1日 ~ 2014年12月31日

登録数は、多い方から、男性では、胃、大腸、肺、前立腺、膀胱、肝臓
女性では、乳房、大腸、胃、肺、子宮、悪性リンパ腫の順となる。
割合は、男性が58%、女性が42%で男性が多い。

部位別登録数(男性)



部位別登録数(女性)



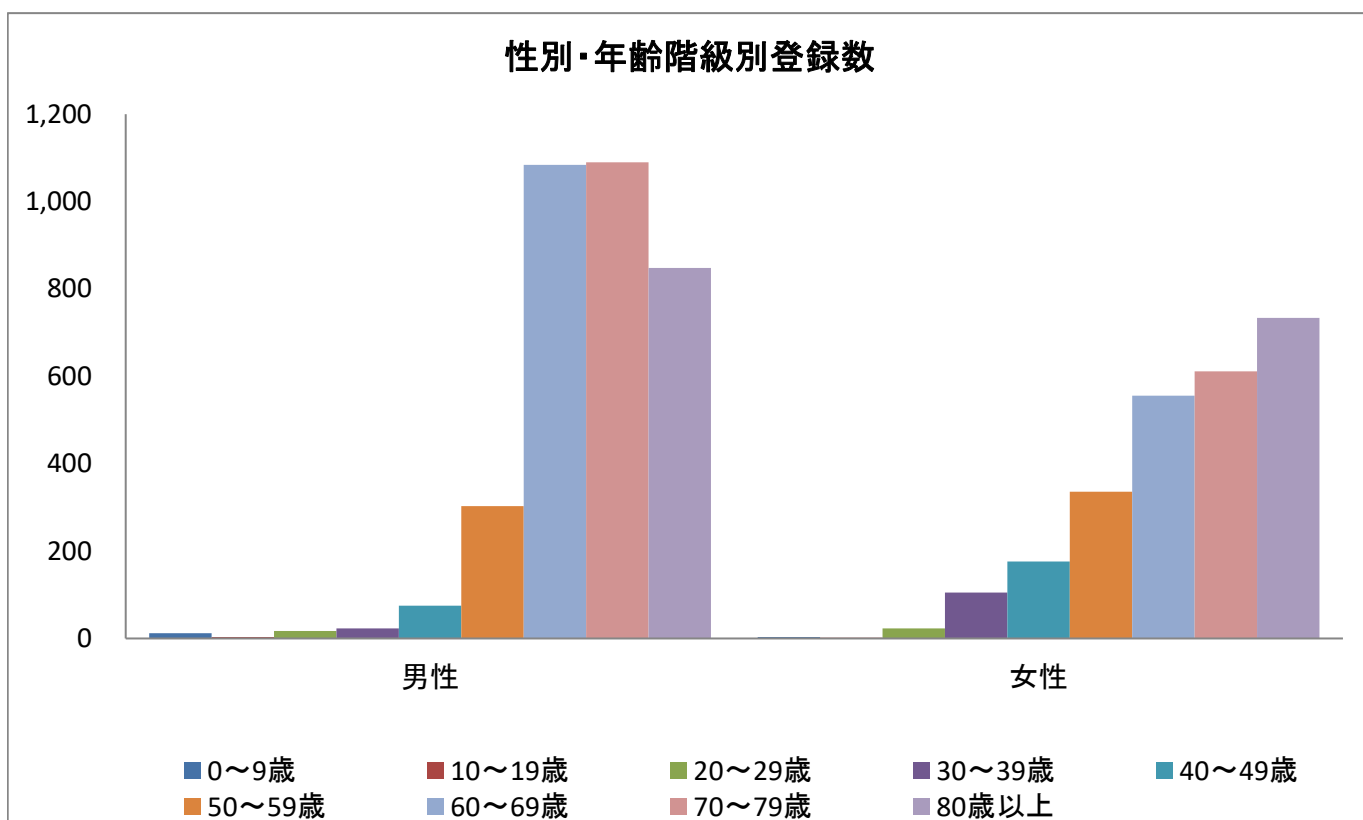
	登録数			割合		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
口腔・咽頭	100	46	146	68%	32%	100%
食道	153	24	177	86%	14%	100%
胃	562	284	846	66%	34%	100%
大腸	515	385	900	57%	43%	100%
肝臓	180	101	281	64%	36%	100%
胆嚢・胆管	80	64	144	56%	44%	100%
膵臓	122	94	216	56%	44%	100%
喉頭	35	2	37	95%	5%	100%
肺	471	230	701	67%	33%	100%
骨・軟部	14	13	27	52%	48%	100%
皮膚(黒色腫を含む)	85	93	178	48%	52%	100%
乳房	2	448	450	0%	100%	100%
子宮	0	220	220	0%	100%	100%
卵巣	0	39	39	0%	100%	100%
前立腺	454	0	454	100%	0%	100%
膀胱	200	55	255	78%	22%	100%
腎・他の尿路	126	62	188	67%	33%	100%
脳・中枢神経系	62	77	139	45%	55%	100%
甲状腺	22	76	98	22%	78%	100%
悪性リンパ腫	95	104	199	48%	52%	100%
多発性骨髄腫	29	18	47	62%	38%	100%
白血病	28	24	52	54%	46%	100%
他の造血器腫瘍	44	27	71	62%	38%	100%
その他	76	60	136	56%	44%	100%
合計	3,455	2,546	6,001	58%	42%	100%

2. 性別・年齢階級別登録数

診断日：2014年1月1日 ～ 2014年12月31日

男性では、60歳代と70歳代にピークが見られるが、女性では、年齢とともに増加する傾向が見られる。とくに、50歳代から60歳代にかけてほぼ倍増するのが注目される。

	男性	女性	計
0～9歳	12	3	15
10～19歳	3	2	5
20～29歳	17	23	40
30～39歳	23	105	128
40～49歳	75	176	251
50～59歳	303	336	639
60～69歳	1,084	556	1,640
70～79歳	1,090	611	1,701
80歳以上	848	734	1,582



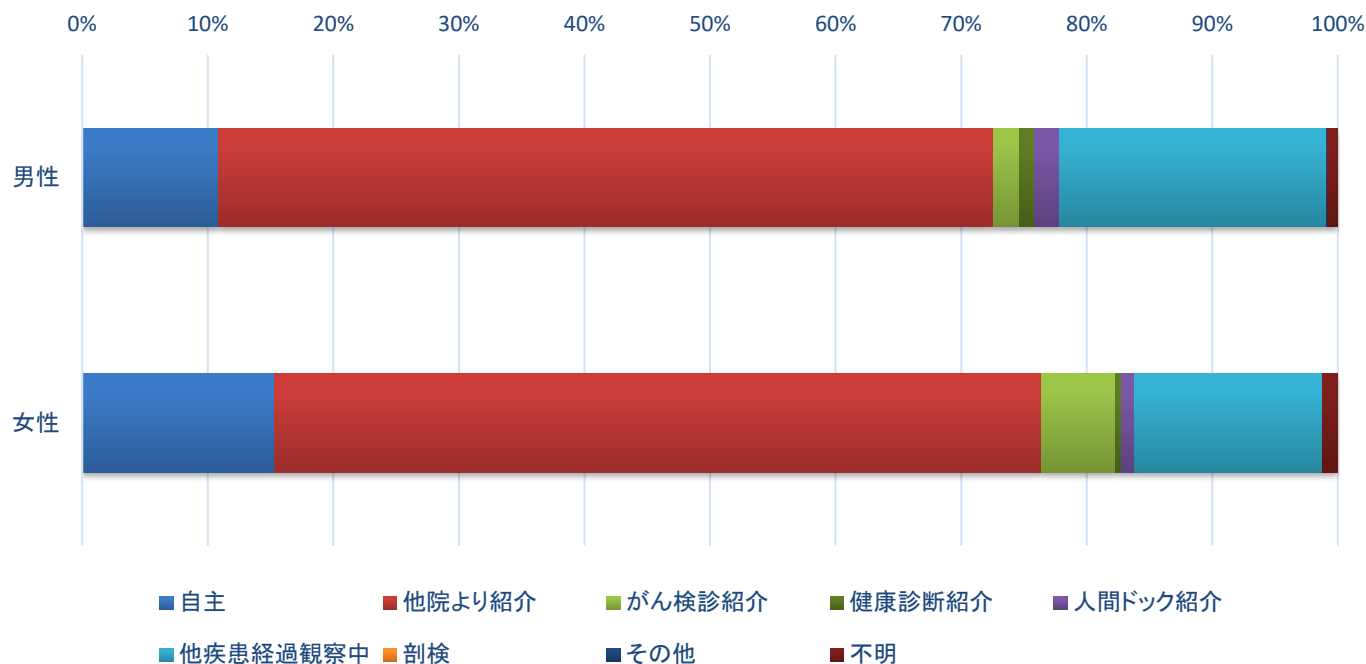
3. 来院経路別登録数と割合

診断日:2014年1月1日 ~ 2014年12月31日

来院経路は、多い方から「他院より紹介」が男女とも6割強を占め、次いで当該施設にて「他疾患経過観察中」、「自主」の来院が2割前後で、「がん検診」、「人間ドック」、「健康診断」による来院は少ない。

	自主	他院より紹介	がん検診紹介	健康診断紹介	人間ドック紹介	他疾患経過観察中	剖検	その他	不明	合計
男性	376	2,132	72	41	69	734	0	2	29	3,455
女性	390	1,556	149	12	27	380	0	0	32	2,546
男性	11%	62%	2%	1%	2%	21%	0%	0%	1%	100%
女性	15%	61%	6%	0%	1%	15%	0%	0%	1%	100%

来院経路別割合

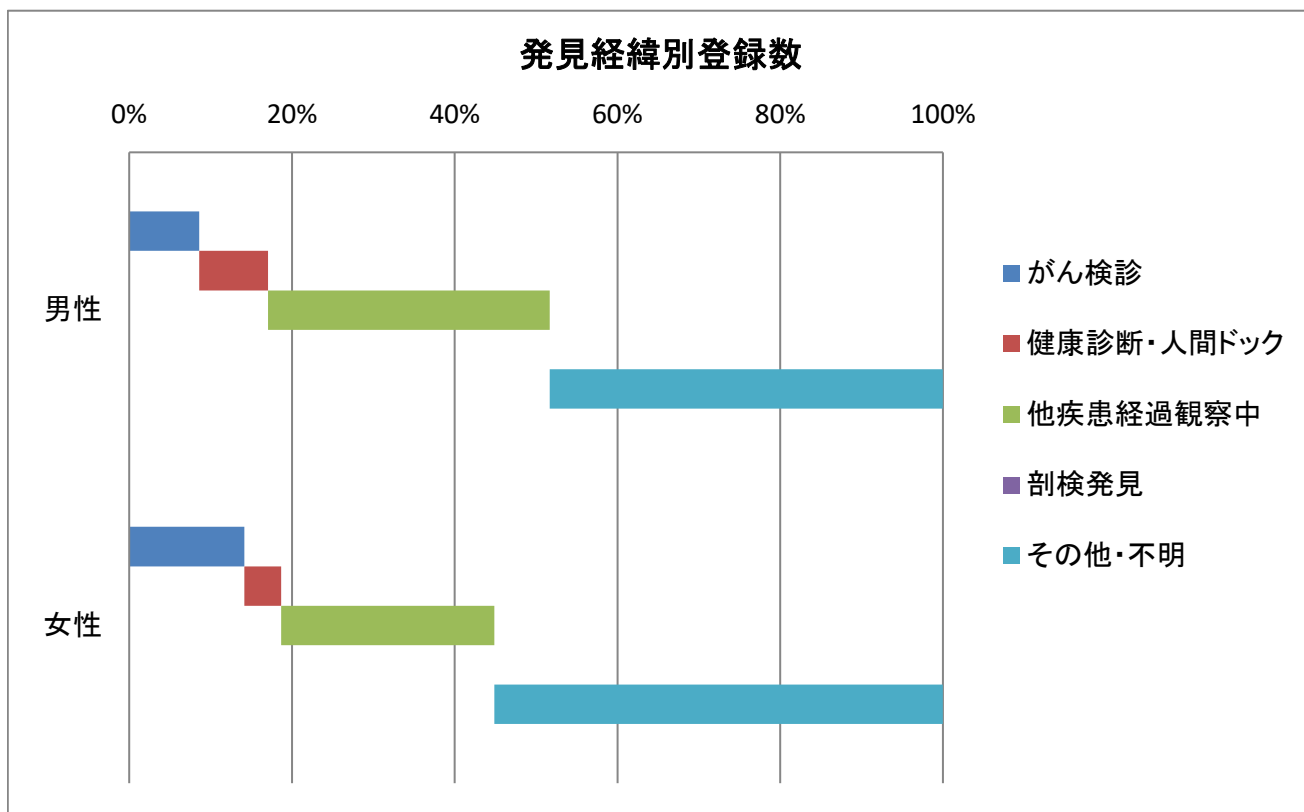


4. 発見経緯別登録数と割合

診断日：2014年1月1日 ～ 2014年12月31日

発見経緯は、多い方から「他疾患経過観察中」が30%前後で最も多く、「がん検診」や「健康診断・人間ドック」によるものはそれぞれ10%前後で少ない。「その他・不明」が約半数を占めるのを考慮する必要がある。

	がん検診	健康診断・人間ドック	他疾患経過観察中	剖検発見	その他・不明	合計
男性	297	293	1,195	0	1,670	3,455
女性	360	115	667	0	1,404	2,546
男性	9%	8%	35%	0%	48%	100%
女性	14%	5%	26%	0%	55%	100%



5. 部位別各種集計結果のまとめ

部位： 胃

診断日： 2014/01/01 ~ 2014/12/31

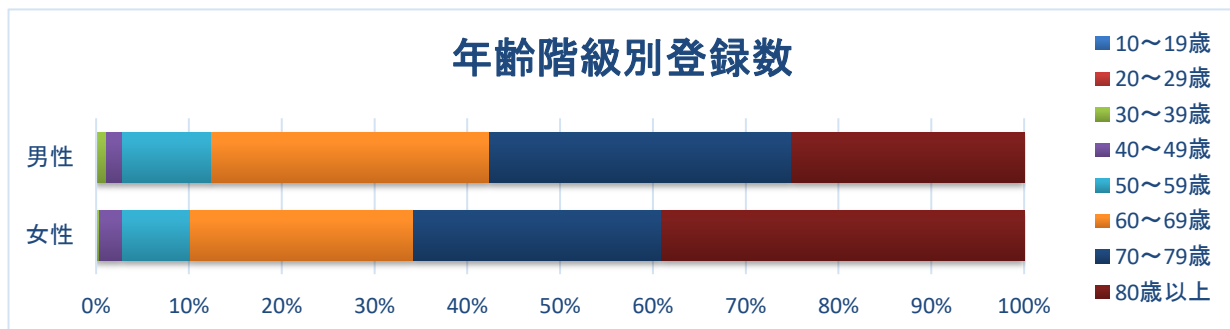
胃がんは、60歳以上が男女とも9割前後を占め、男性では70歳代が、女性では80歳以上が最も多い。

ステージ別には、I期が58%と6割を占め、II期は9%、III期は8%、IV期は17%と増加する。

ステージ別に治療方法を観察すると、I期では「手術のみ」、「内視鏡のみ」の治療がほとんどを占め、「手術/内視鏡+薬物療法」と「治療なし」で16%となる。II期、III期では「手術のみ」と「手術/内視鏡+薬物療法」がそれぞれ35~51%を占め、合わせて8割~9割となる。IV期では、「薬物療法のみ」と「治療なし」で7割を占める。

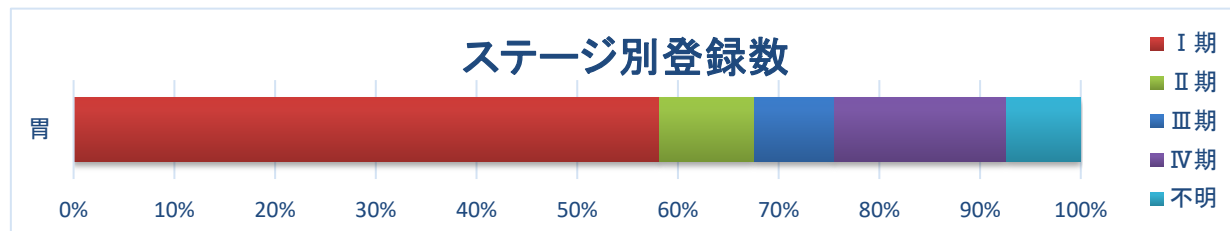
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10~19歳	0	0
20~29歳	1	0
30~39歳	5	1
40~49歳	10	7
50~59歳	54	21
60~69歳	168	68
70~79歳	183	76
80歳以上	141	111
合計	562	284



2. ステージ別登録数

	件数	割合
I期	479	58%
II期	77	9%
III期	66	8%
IV期	140	17%
不明	61	7%
合計	823	100%

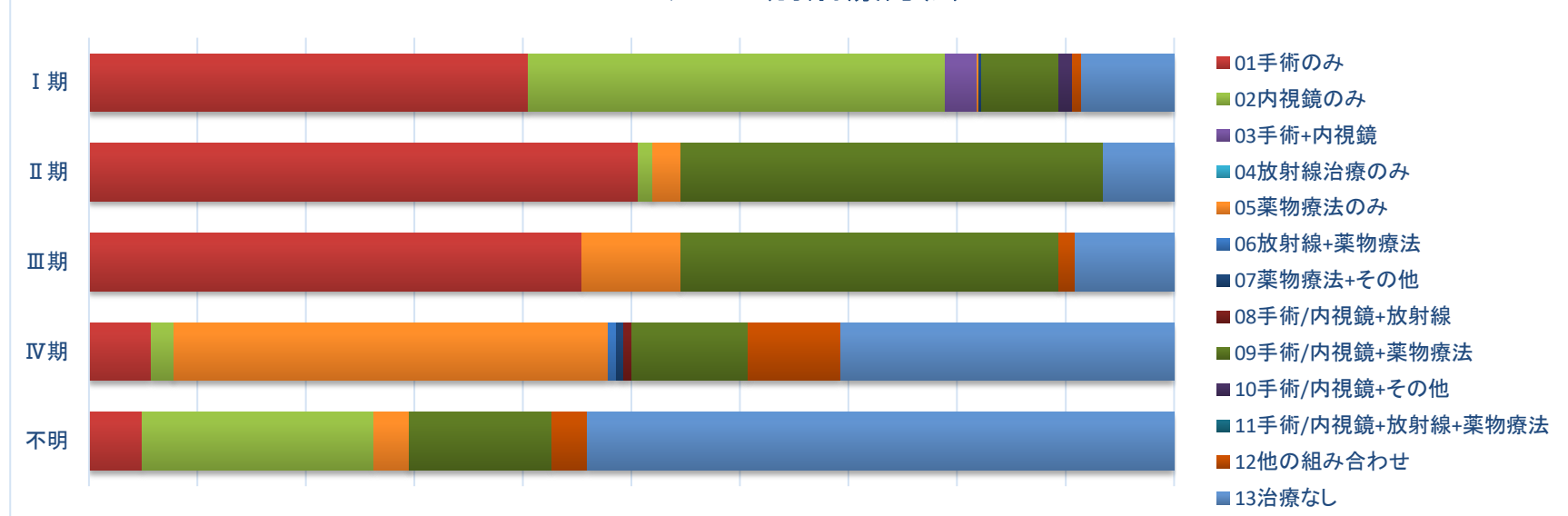


3. ステージ別治療方法

註) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	I期	II期	III期	IV期	不明	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	194	39	30	8	3	41%	51%	45%	6%
02内視鏡のみ	184	1	0	3	13	38%	1%	0%	2%
03手術+内視鏡	14	0	0	0	0	3%	0%	0%	0%
04放射線治療のみ	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
05薬物療法のみ	1	2	6	56	2	0%	3%	9%	40%
06放射線+薬物療法	0	0	0	1	0	0%	0%	0%	1%
07薬物療法+その他	1	0	0	1	0	0%	0%	0%	1%
08手術/内視鏡+放射線	0	0	0	1	0	0%	0%	0%	1%
09手術/内視鏡+薬物療法	34	30	23	15	8	7%	39%	35%	11%
10手術/内視鏡+その他	6	0	0	0	0	1%	0%	0%	0%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
12他の組み合わせ	4	0	1	12	2	1%	0%	2%	9%
13治療なし	41	5	6	43	33	9%	6%	9%	31%
合計	479	77	66	140	61	100%	100%	100%	100%

ステージ別治療方法



5. 部位別各種集計結果のまとめ

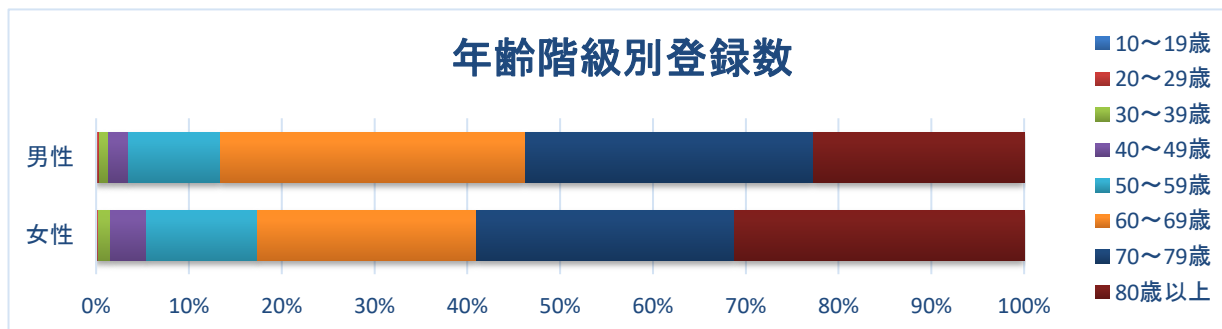
部 位： 大腸

診断日： 2014/01/01 ~ 2014/12/31

大腸がんは、60歳以上が男女とも8割～9割を占め、男性では60歳代が、女性では80歳以上が最も多い。
 ステージ別には、0期が11%、I期からIV期までは、いずれも20%前後を占め、ステージによる違いは見られない。
 ステージ別に治療方法を観察すると、0期では「内視鏡のみ」が78%を占め、「手術のみ」は17%と少ない。I期では「手術のみ」、
 「内視鏡のみ」の治療がほとんどを占め、「手術/内視鏡+薬物療法」は14%と少ない。II期、III期では「手術のみ」と「手術/内視鏡+薬物療法」に集約され、IV期では「手術のみ」と「薬物療法のみ」と「手術/内視鏡+薬物療法」および「治療なし」がそれぞれ20%前後を占める。

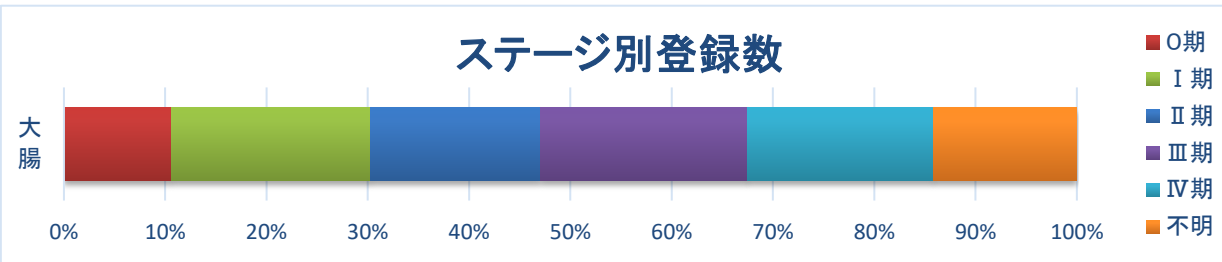
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10～19歳	0	0
20～29歳	2	1
30～39歳	5	5
40～49歳	11	15
50～59歳	51	46
60～69歳	169	91
70～79歳	160	107
80歳以上	117	120
合計	515	385



2. ステージ別登録数

	件数	割合
0期	95	11%
I期	175	20%
II期	150	17%
III期	182	20%
IV期	164	18%
不明	126	14%
合計	892	100%

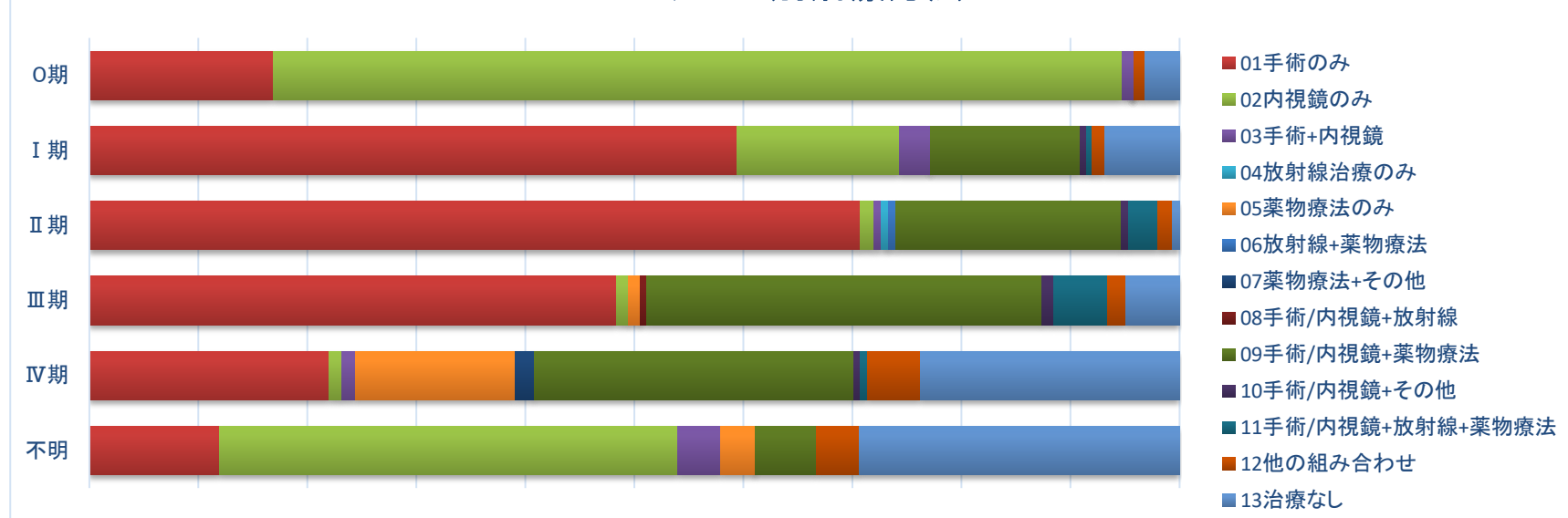


3. ステージ別治療方法

註) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明	0期	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	16	104	106	88	36	15	17%	59%	71%	48%	22%
02内視鏡のみ	74	26	2	2	2	53	78%	15%	1%	1%	1%
03手術+内視鏡	1	5	1	0	2	5	1%	3%	1%	0%	1%
04放射線治療のみ	0	0	1	0	0	0	0%	0%	1%	0%	0%
05薬物療法のみ	0	0	0	2	24	4	0%	0%	0%	1%	15%
06放射線+薬物療法	0	0	1	0	0	0	0%	0%	1%	0%	0%
07薬物療法+その他	0	0	0	0	3	0	0%	0%	0%	0%	2%
08手術/内視鏡+放射線	0	0	0	1	0	0	0%	0%	0%	1%	0%
09手術/内視鏡+薬物療法	0	24	31	66	48	7	0%	14%	21%	36%	29%
10手術/内視鏡+その他	0	1	1	2	1	0	0%	1%	1%	1%	1%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	1	4	9	1	0	0%	1%	3%	5%	1%
12他の組み合わせ	1	2	2	3	8	5	1%	1%	1%	2%	5%
13治療なし	3	12	1	9	39	37	3%	7%	1%	5%	24%
合計	95	175	150	182	164	126	100%	100%	100%	100%	100%

ステージ別治療方法



5. 部位別各種集計結果のまとめ

部 位： 肝臓

診断日： 2014/01/01 ~ 2014/12/31

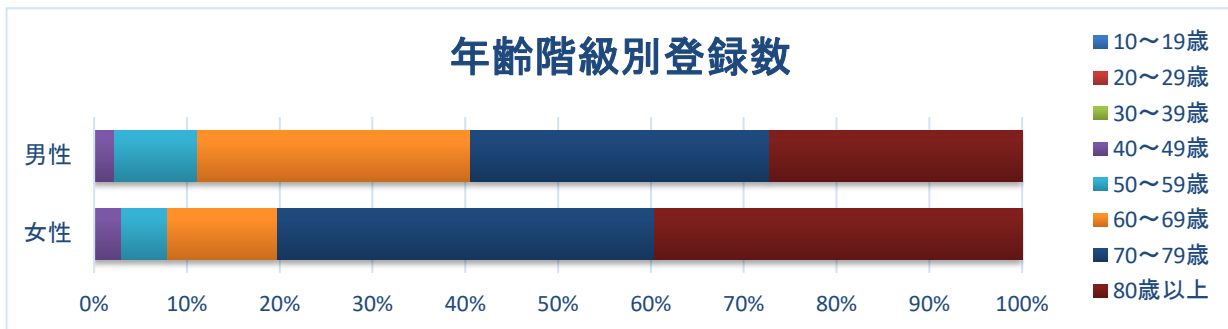
肝臓がんは、男女とも60歳以上が9割前後を占め、男女とも70歳代が最も多い。

ステージ別には、I期とII期で57%と6割を占めるが、III期は16%、IV期は18%で合わせて4割を占める。

ステージ別の治療方法を観察すると、I期では「手術のみ」と「薬物療法+その他」および「他の組み合わせ」でほぼ90%を占め、それぞれの項目は30%前後を占める。II期、III期では「手術のみ」と「他の組み合わせ」が減り、「薬物療法+その他」が、II期で45%、III期で32%に増加、IV期では「治療なし」が49%で最も多く、薬物療法との組み合わせが26%となる。

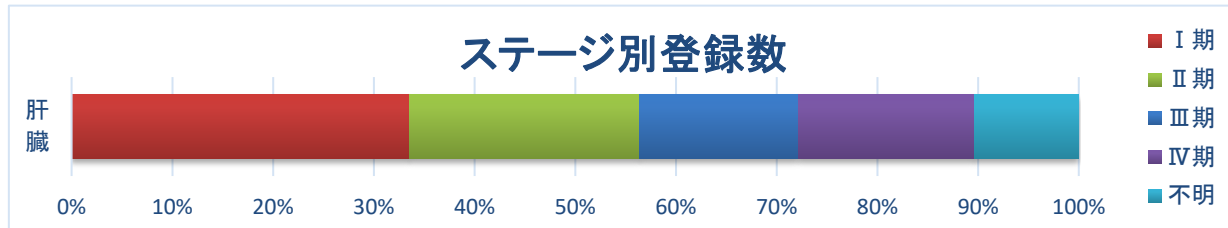
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10～19歳	0	0
20～29歳	0	0
30～39歳	0	0
40～49歳	4	3
50～59歳	16	5
60～69歳	53	12
70～79歳	58	41
80歳以上	49	40
合計	180	101



2. ステージ別登録数

	件数	割合
I期	94	34%
II期	64	23%
III期	44	16%
IV期	49	18%
不明	29	10%
合計	280	100%

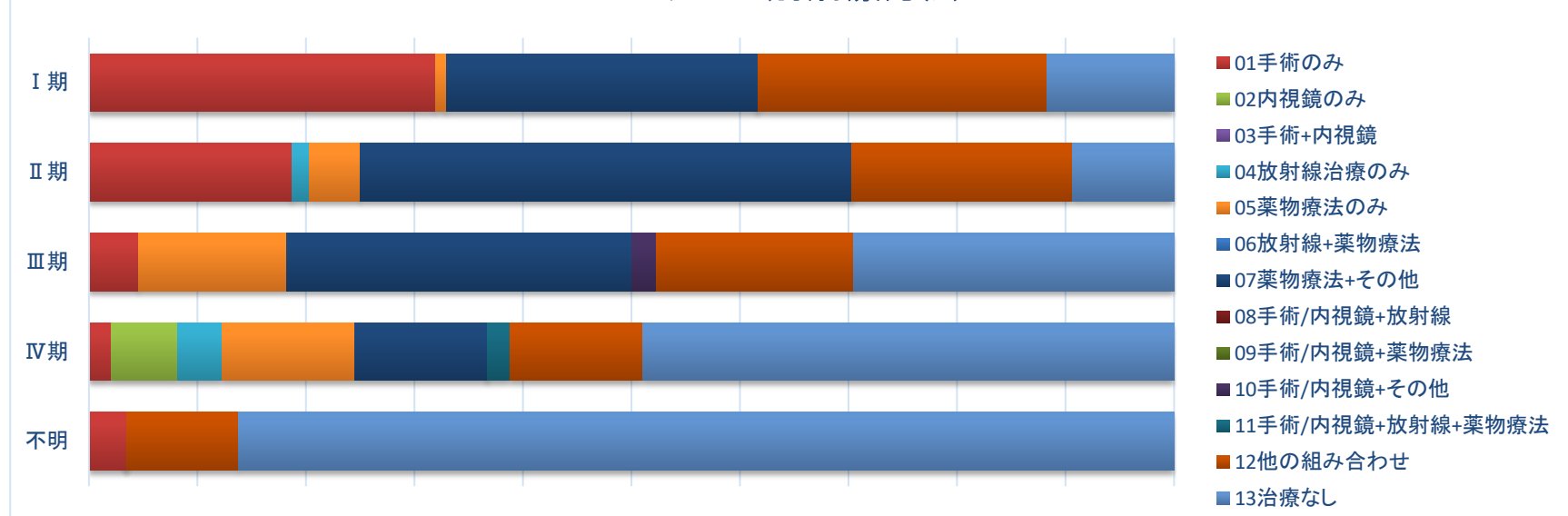


3. ステージ別治療方法

註) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	I期	II期	III期	IV期	不明	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	30	12	2	1	1	32%	19%	5%	2%
02内視鏡のみ	0	0	0	3	0	0%	0%	0%	6%
03手術+内視鏡	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
04放射線治療のみ	0	1	0	2	0	0%	2%	0%	4%
05薬物療法のみ	1	3	6	6	0	1%	5%	14%	12%
06放射線+薬物療法	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
07薬物療法+その他	27	29	14	6	0	29%	45%	32%	12%
08手術/内視鏡+放射線	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
09手術/内視鏡+薬物療法	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
10手術/内視鏡+その他	0	0	1	0	0	0%	0%	2%	0%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	0	0	1	0	0%	0%	0%	2%
12他の組み合わせ	25	13	8	6	3	27%	20%	18%	12%
13治療なし	11	6	13	24	25	12%	9%	30%	49%
合計	94	64	44	49	29	100%	100%	100%	100%

ステージ別治療方法



5. 部位別各種集計結果のまとめ

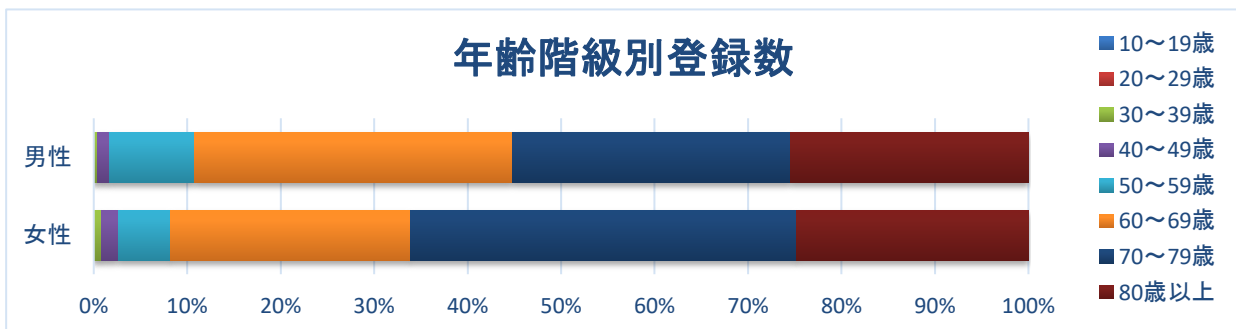
部位：肺

診断日：2014/01/01～2014/12/31

肺がんは、男女とも60歳以上が9割を占め、男性では60歳代が、女性では70歳代が最も多い。
 ステージ別には、I期は41%、IV期は31%と7割を占め、II期は8%、III期は13%と少ない。
 ステージ別の治療方法を観察すると、0期はゼロ件で、I期では「手術のみ」が64%と多数占めるが、「手術/内視鏡+薬物療法」が13%、「治療なし」が12%と少なからずある。II期、III期、IV期と進行に伴って、「手術のみ」は減少し、薬物療法との組み合わせは50%前後を占め、「治療なし」は19%から42%に増加する。IV期では薬物療法との組み合わせと「治療なし」は合わせて9割強となる。

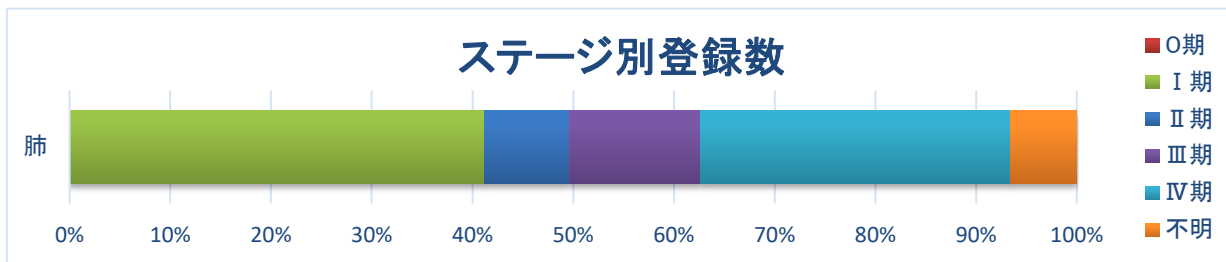
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10～19歳	0	0
20～29歳	0	0
30～39歳	2	2
40～49歳	6	4
50～59歳	43	13
60～69歳	160	59
70～79歳	140	95
80歳以上	120	57
合計	471	230



2. ステージ別登録数

	件数	割合
0期	0	0%
I期	289	41%
II期	59	8%
III期	91	13%
IV期	216	31%
不明	46	7%
合計	701	100%

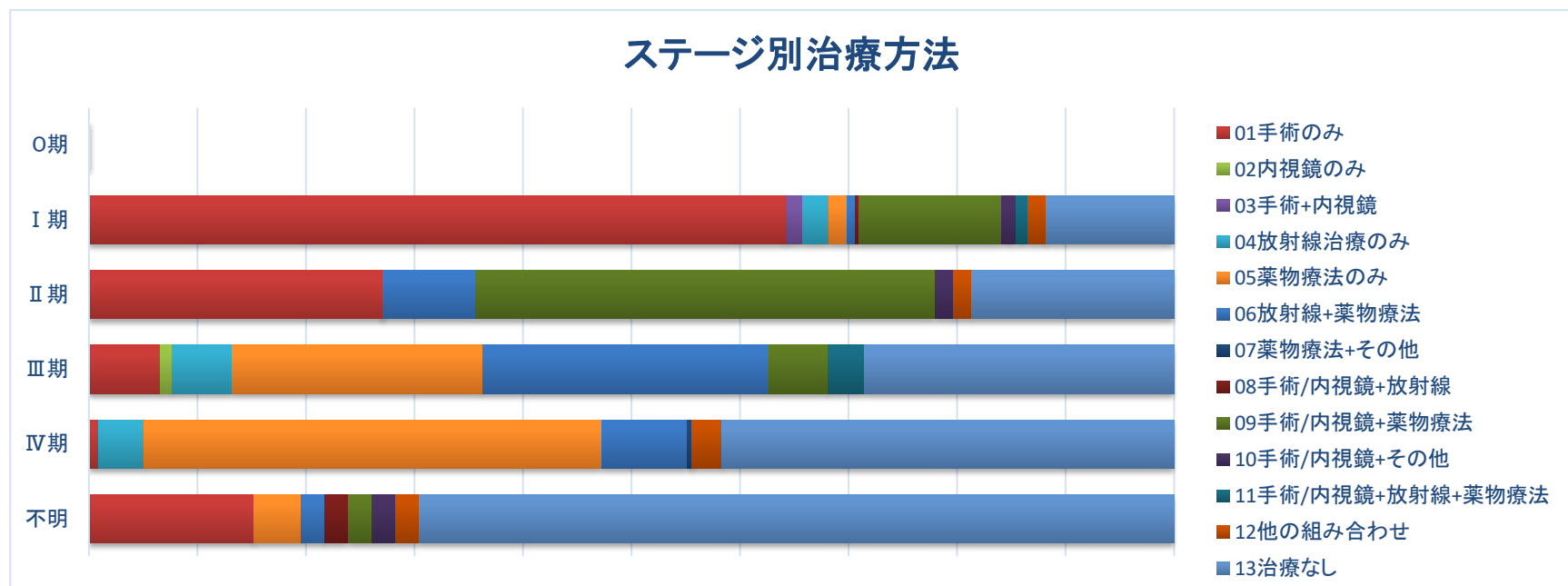


3. ステージ別治療方法

注) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明	0期	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	0	186	16	6	2	7	-	64%	27%	7%	1%
02内視鏡のみ	0	0	0	1	0	0	-	0%	0%	1%	0%
03手術+内視鏡	0	4	0	0	0	0	-	1%	0%	0%	0%
04放射線治療のみ	0	7	0	5	9	0	-	2%	0%	5%	4%
05薬物療法のみ	0	5	0	21	91	2	-	2%	0%	23%	42%
06放射線+薬物療法	0	2	5	24	17	1	-	1%	8%	26%	8%
07薬物療法+その他	0	0	0	0	1	0	-	0%	0%	0%	0%
08手術/内視鏡+放射線	0	1	0	0	0	1	-	0%	0%	0%	0%
09手術/内視鏡+薬物療法	0	38	25	5	0	1	-	13%	42%	5%	0%
10手術/内視鏡+その他	0	4	1	0	0	1	-	1%	2%	0%	0%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	3	0	3	0	0	-	1%	0%	3%	0%
12他の組み合わせ	0	5	1	0	6	1	-	2%	2%	0%	3%
13治療なし	0	34	11	26	90	32	-	12%	19%	29%	42%
合計	0	289	59	91	216	46	-	100%	100%	100%	100%

ステージ別治療方法 (Stage-specific Treatment Methods)



5. 部位別各種集計結果のまとめ

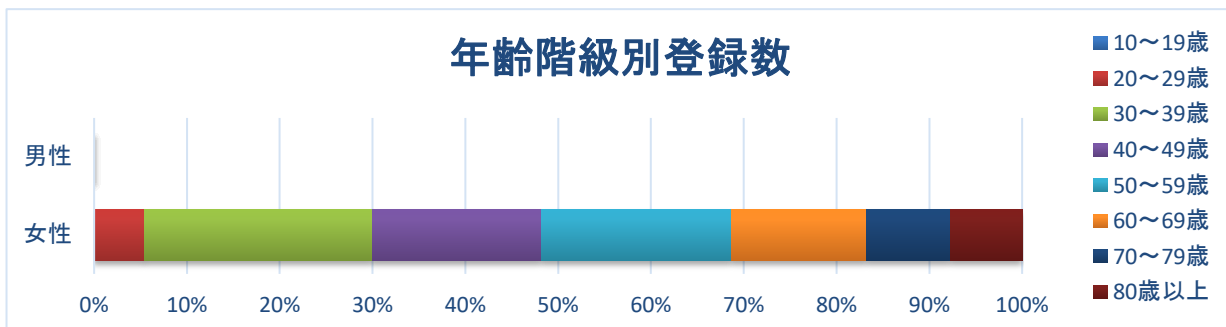
部 位： 子宮

診断日： 2014/01/01 ~ 2014/12/31

子宮がんは、30歳代が最も多く、40歳代、50歳代でも高値を維持するが、その後年代が高くなるとともに減少する。ステージ別には、0期は33%、I期は32%で合わせて65%を占め、II期、III期、IV期は4%~10%の範囲で少なくなる。ステージ別の治療方法を観察すると、0期では「手術のみ」がほとんどで97%、I期でも「手術のみ」は57%と最も多く、「手術/内視鏡+薬物療法」が21%、「治療なし」が16%となる。「手術のみ」は、II期、III期、IV期とも0~2件に減少し、「治療なし」と「薬物療法のみ」、「放射線治療のみ」、「放射線+薬物療法」、「手術/内視鏡+薬物療法」が増加し、合わせてほぼ9割を占める。

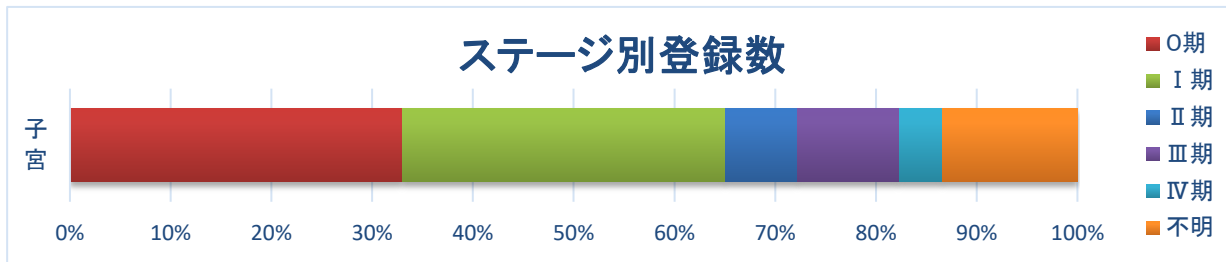
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10~19歳	0	0
20~29歳	0	12
30~39歳	0	54
40~49歳	0	40
50~59歳	0	45
60~69歳	0	32
70~79歳	0	20
80歳以上	0	17
合計	0	220



2. ステージ別登録数

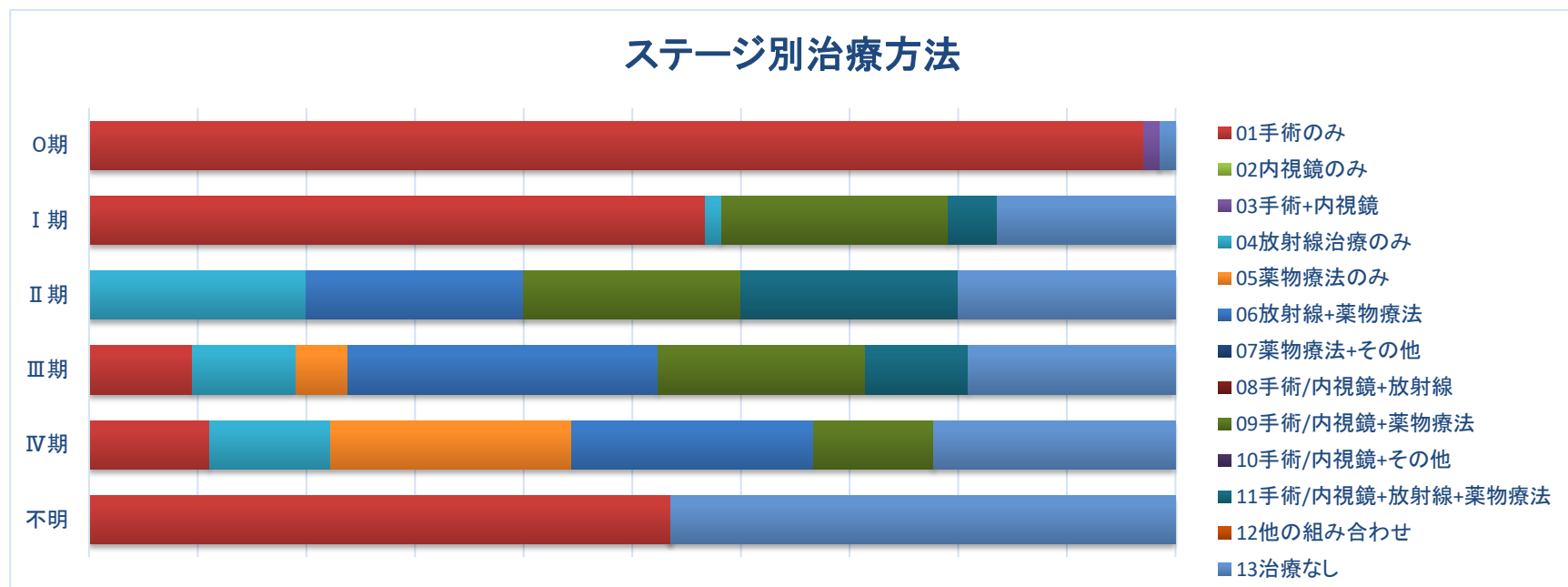
	件数	割合
0期	69	33%
I期	67	32%
II期	15	7%
III期	21	10%
IV期	9	4%
不明	28	13%
合計	209	100%



3. ステージ別治療方法

註) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	0期	I期	II期	III期	IV期	不明	0期	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	67	38	0	2	1	15	97%	57%	0%	10%	11%
02内視鏡のみ	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
03手術+内視鏡	1	0	0	0	0	0	1%	0%	0%	0%	0%
04放射線治療のみ	0	1	3	2	1	0	0%	1%	20%	10%	11%
05薬物療法のみ	0	0	0	1	2	0	0%	0%	0%	5%	22%
06放射線+薬物療法	0	0	3	6	2	0	0%	0%	20%	29%	22%
07薬物療法+その他	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
08手術/内視鏡+放射線	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
09手術/内視鏡+薬物療法	0	14	3	4	1	0	0%	21%	20%	19%	11%
10手術/内視鏡+その他	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	3	3	2	0	0	0%	4%	20%	10%	0%
12他の組み合わせ	0	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%	0%
13治療なし	1	11	3	4	2	13	1%	16%	20%	19%	22%
合計	69	67	15	21	9	28	100%	100%	100%	100%	100%



5. 部位別各種集計結果のまとめ

部 位： 前立腺

診断日： 2014/01/01 ~ 2014/12/31

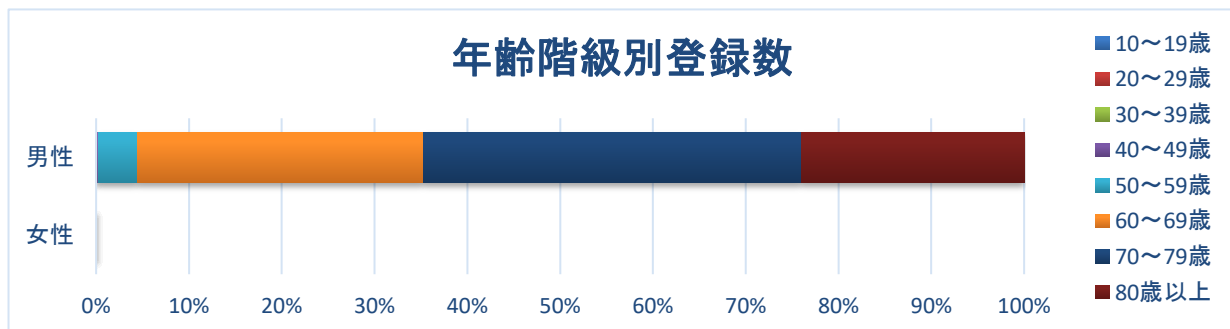
前立腺がんは、60歳以上がほとんどで96%を占め、70歳代が最も多い。

ステージ別には、I期が40%で最も多く、II期は23%で、III期で10%と半減するが、IV期は19%と増加する。

ステージ別の治療方法を観察すると、I期では「手術のみ」と「薬物療法のみ」と「治療なし」がそれぞれ3割前後で、合わせて82%とほとんどを占める。この傾向は、II期にも継続されるが、「薬物療法のみ」はIII期は45%、IV期では65%に増加する。IV期では、「薬物療法のみ」に「放射線+薬物療法」、「手術/内視鏡+薬物療法」を合計すると83%となる。「放射線+薬物療法」は、I期が9%、II期が8%、III期が20%となり、IV期では6%に減少する。

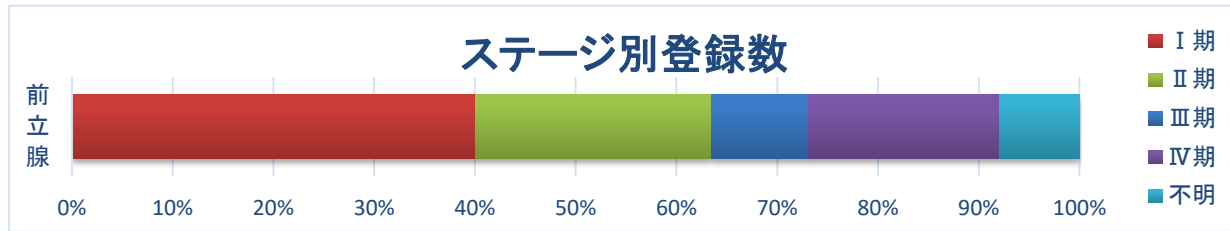
1. 年齢階級別登録数

	男性	女性
10～19歳	0	0
20～29歳	0	0
30～39歳	0	0
40～49歳	1	0
50～59歳	19	0
60～69歳	140	0
70～79歳	185	0
80歳以上	109	0
合計	454	0



2. ステージ別登録数

	件数	割合
I期	182	40%
II期	106	23%
III期	44	10%
IV期	86	19%
不明	36	8%
合計	454	100%



3. ステージ別治療方法

註) %は、ステージ毎の治療方法別割合を示す

	I期	II期	III期	IV期	不明	I期	II期	III期	IV期
01手術のみ	47	31	5	1	7	26%	29%	11%	1%
02内視鏡のみ	1	1	0	1	2	1%	1%	0%	1%
03手術+内視鏡	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
04放射線治療のみ	10	5	2	0	0	5%	5%	5%	0%
05薬物療法のみ	45	32	20	56	5	25%	30%	45%	65%
06放射線+薬物療法	16	9	9	5	0	9%	8%	20%	6%
07薬物療法+その他	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
08手術/内視鏡+放射線	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
09手術/内視鏡+薬物療法	5	7	0	10	2	3%	7%	0%	12%
10手術/内視鏡+その他	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
11手術/内視鏡+放射線+薬物療法	0	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
12他の組み合わせ	1	0	0	0	0	1%	0%	0%	0%
13治療なし	57	21	8	13	20	31%	20%	18%	15%
合計	182	106	44	86	36	100%	100%	100%	100%

ステージ別治療方法 (Stage-specific Treatment Methods)

